

胸痛患者における冠微小血管機能障害の臨床的特徴と関連因子について

齋藤勝太郎

(愛仁会高槻病院 循環器内科)

【背景】

冠微小血管機能障害（CMD）は、虚血性非閉塞性冠動脈疾患の原因とされているが、依然として多くの不明点が存在する。本研究の目的は、CMD の頻度を評価し、CMD に関連する臨床的特徴および要因を調査することである。

【方法】

本研究は単一施設で実施された後ろ向き観察研究であり、2023 年 3 月から 12 月の間に冠動脈造影で閉塞性の大血管病変を認めない狭心症症状を有する患者を対象とした。対象患者はアセチルコリン負荷による血管反応性試験およびガイドワイヤーを用いた冠血流予備量比（CFR）および微小循環抵抗指数（IMR）の評価を受けた。患者は $CFR \leq 2$ または $IMR \geq 25$ を示した CMD 群と、それ以外の非 CMD 群に分類された。患者背景を評価し、CMD に関連する因子を多変量解析にて解析した。

【結果】

最終的に 68 名の患者が解析対象となった。そのうち 3 名は冠攣縮性狭心症と診断され、24 名（35.3%）が CMD 群に分類された。喫煙歴の頻度は CMD 群で有意に高く（58.3% vs. 31.8%、 $P=0.042$ ）、多変量解析では喫煙歴が CMD と独立して関連していることが示された（オッズ比 3.00 [95%信頼区間 1.07-8.40]、 $P=0.037$ ）。

【結論】

狭心症症状を有する患者のおよそ 30%に CMD が認められ、喫煙歴は CMD と強く関連していた。